

平成28年度第1回千葉競輪場開催業務等包括委託審査委員会議事録要旨

- 1 日 時 平成28年7月27日(水) 午後1時30分～午後3時00分
- 2 場 所 千葉競輪場4階多目的室
- 3 出席者 (委員)
篠崎委員長、市原委員、高岡委員、藤本委員、山本委員
(事務局)
今井経済部長、鴻崎所長、上坊寺経済企画課主査、山本主任主事
(日本写真判定株式会社 以下JPF)
吉川部長、小宮次長、荻原事業長、石塚事業長代理、高橋事業長代理
青野
- 4 議 題 (1) 包括業務委託の進捗状況モニタリングについて(4月～6月)
(2) その他

5 会議経過

(篠崎委員長)

議題1の包括業務委託の進捗状況モニタリングについて、JPFに説明を求める。

(包括業務委託の進捗状況モニタリングについて)

(JPFが配布資料に沿って説明)

(イベントについて)

- ・平成28年4月14日に熊本大震災が起こり、急遽、白鳥杯開催中の5月11日に選手会主導でチャリティーオークションを実施した。約20万円が集まり、選手会を通して被災地の支援金として送金した。
- ・4月に千葉競輪場バックヤードツアー、5月に子供の日イベントを実施した。
- ・第5回GSRカップに出場。選手会の選手たちと一緒に参加して優勝した。3本ローラー体験などを通して競輪場のPRを実施した。
- ・千葉競輪場で野菜を育てる企画の「育てて食べよう、キッチンストーリー」を実施。地域の方々が参加しており、キュウリやプチトマトなどを育てている。収穫した作物でBBQ大会を開催する予定。
- ・椿森中学校の生徒による職場体験を実施した。5名の生徒が競輪場業務を体験した。参加者の1人から、将来競輪選手になりたいとの声があった。
- ・第2回アフターナイトパーティーを実施した。参加者と選手がゲームなどで盛り上が

った。今後もイベントを通じて選手の応援団を増やしていきたい。

- ・タンデムバイクの試乗会を実施した。地域の愛好家と視覚障害をお持ちの方が参加した。大人になってから視覚障害の病気を患って、自転車に乗れなくなった方から、「久しぶりに自転車に乗り、風を感じることができた。」「またタンデム自転車に乗るために千葉競輪場に遊びに来たい。」などの感想があった。しかし、アンケートの中で、半数近くの参加者が、タンデム自転車はパラリンピックの競技になっていることを知らなかった。今後スポーツとしてのタンデム自転車をPRしたい。
- ・4月から地元自治会へのお知らせを月に2回程度発行している。
- ・平成28年3月末で廃止となった船橋オートレース場スタッフをキャリアを持った経験者として採用した。65歳を超えているが、やる気とスキルが非常に高いので、採用に至った。
- ・ヨガインストラクターの経験を持つスタッフやバルーンアートが得意なスタッフがいるので、朝のラジオ体操やイベントでの特技の活用を検討する。

(統制業務について)

- ・現在、Next-VISの全体稼働に向けて工事を行っている。シンプルに再構築するので、自動化できる点をコストの削減につなげたい。
- ・(データ通信の高画質化に対応できる映像システムの) HD化に向けたオッズシステムのテストを実施している。色がはっきりして見やすく表示ができた。

(事業計画の進捗報告について)

- ・今年度と前年度の4月から7月途中までの車券売上結果を同じグレードと日数で比較すると、ほぼ同等だった。
- ・包括委託実施前の平成24年度の売上と、平成25・26・27年度の委託後の3年間との売上額を比較した。千葉市営競輪の売上額と全国43場、年度によっては44場の平均値との比較となる。千葉の売上額は、全国平均の推移とほぼリンクしている。全国でも本場開催の売上額が減少し、電話・インターネット投票の部分での売上額が増加している。
- ・場外発売の比較では、毎年開催日数が違うことから単純に比較できないが、直近の平成26年度と27年度を比較した。残念ながら、GII開催に関しては、少し減少している。
- ・売上額が増加したのは、FI開催やナイター開催。FI開催については、平成26年度は158日に対して、27年度は188日と、およそ30日の増加となっている。開催日数は増やす余地がないので、併用発売、同時に1日に複数の競輪を発売するという形でお客様に買う対象のレースを増やして、売上を確保したい。

- ・千葉市営競輪の売上額について、今年度の4～6月期は、ほぼ目標を達成した。平成27年度の4月に、F I ジャパンカップという全国的に発売することで売上増が期待できる開催があったため、単純比較はできない。F II開催については、昨年度12日の開催に対して今年は6日の開催だが、1日当たりの売上はほぼ同等の数字である。
- ・電話投票、インターネット投票の売上額が上がってきている。6月の千葉市営競輪F I開催時にキャッシュバックを実施した結果、5月の白鳥杯という冠レースよりも6月のF I開催の方が売上が多かった。今後も電話投票、インターネット投票に注力していきたい。
- ・場外開催について今年度と昨年度の4～6月期を比較すると、単純に比較はできないが、ナイターの売上額が少し下がっている。

(委員会提案事項の報告について)

- ・前回の委員会で質問があった、他場の千葉市営競輪販売実績を作成した。伊東温泉競輪場が16回、千葉市営競輪の場外を発売している。次いで、青森、松戸、小倉、宇都宮、名古屋、函館と続いている。今後、南関東地区で売ってもらえるよう、努力したい。また、サテライトを含めて、千葉市営競輪の売上額増加策を検討したい。
- ・J P Fは、千葉の他に松阪、広島、富山の各競輪場の包括業務委託を受託している。相互に場外発売を実施することも検討している。

(ネクストステップについて)

- ・場内のお客様やサイクルクラブのメンバーから、気軽に子どもを遊ばせられる環境づくりの要望を受けた。自転車の情報発信基地として、イギリスのロンドンにあるサイクルカフェで「Look Mum No Hands」という実際のお店を参考に、自転車のメンテナンスもできる、サイクルスペースを作る。カフェスペースでお茶を楽しみ、従業員が自転車のパンク修理や調整ができるスペースとしたい。

(ガールズケイリンについて)

- ・12月のガールズケイリン開催に向けて、選手管理棟、医務室及び選手の宿舍の3か所で改修を行っている。具体的な改修は、風呂場の目隠し、女子用のトイレ、シャワールームの設置など。
- ・ガールズケイリンは、通常開催に加えて1日2レース開催するので、売上額の増加も期待できる。
- ・リオパラリンピックに出場する田中まい選手など、日本競輪選手会千葉支部に強いガールズ選手が多く所属しているので、ガールズファンの来場を期待する。

(千葉競輪場の広報について)

- ・バイシクルナビという雑誌で千葉サイクルクラブが「トラックを走行できる競輪場主催のクラブ」として紹介され、クラブのサイクルジャージが掲載された。メディアの取材を通じて、競輪場の活性化につなげたい。
- ・テレビ朝日の「スーパーJチャンネル」の新東京見聞録というコーナーの取材で、オリンピックを支える日本の技術として、オージーケーカブトのヘルメットの撮影が千葉競輪場で行われた。対外的なニュースも含めてメディアへの投げ込みを継続したい。
- ・リオオリンピックが夏に開催されるので、千葉競輪場のPRにつなげたい。

(篠崎委員長)

議題(1)包括業務委託の進捗状況モニタリングについて、事務局にモニタリング結果の説明を求める。

(事務局 山本主任主事)

- ・受託者から提出のあった平成28年度開催事業実施計画にもとづき計画通り事業を実施していることを確認した。
- ・開催ごとに、4月から6月までの開催業務実施計画書及び開催業務実施報告書の提出を受けて、市営競輪の開催業務について検査を行い、実施計画通り開催業務を良好に遂行していることを評価した。

(篠崎委員長)

- ・自転車運動会の内容について説明を求める。

(J P F)

- ・選手の方々は、普段から自分たちは支えてもらっているという意識もあるそうで、10名近くの方が集まって交流した。特に、玉入れが盛り上がった。スタッフの孫も参加して、参加者一同、楽しいひと時を過ごし、コミュニケーションを図ることができた。

(篠崎委員長)

- ・4月から6月までの千葉市営競輪の売上額について、5月に白鳥杯を開催したのに、車券売上額が低いと思うがどうか。

(J P F)

- ・白鳥杯は強い選手が集まったが、全国的に他のF I開催が重なったことから、売上が分散したと思われる。
- ・6月のF 1では、重複するF I開催が、5月の白鳥杯よりも少なかった。また、電話投票のキャッシュバックキャンペーンを実施したこともあり、特に電話投票の売り上

げが良かった。今後はキャッシュバックキャンペーンを単独開催で実施するのか1年間を通して実施するのかを検討していく。

- ・白鳥杯は平日の開催だった。6月のF I開催は木金土曜日で、土曜日が1日入っており、入場者も合計で500人多かったことも影響していると考ええる。

(高岡委員)

- ・キャッシュバックの仕組みを説明してほしい。

(J P F)

- ・今回の手法は、開催3日間で合計1万円以上買われたお客様に対してキャッシュバックを行った。普段は5,000円のキャッシュバックを100名実施しているが、今回は25,000円を10名にで実施した。キャッシュバックの総額を下げたが、1人当たりの金額を上げた。民間投票サイトの「チャリロト」、「Kドリームス」、「オッズパーク」には、各25万円という総額を伝えてキャンペーンを依頼した。
- ・各民間投票サイトでは、購入金額に対して1~3%のポイントバックを実施している。全国競輪施行者協議会(サイクルテレフォンセンター)がやっているKEIRIN.JP(電話投票、インターネット投票)のキャッシュバックは、対象者を抽選して実施している。民間投票サイトでは常にポイントバックがあり、今回のキャッシュバックは、+ α のサービスになる。

(市原委員)

- ・ガールズケイリンの計画については、12月のジャパンカップから実施になっている。今年度のガールズケイリンは、12月のジャパンカップのみという事になるのか。

(J P F)

- ・12月と3月を予定している。レース数も11レースから12レースに増える。

(藤本委員)

- ・サイクルカフェの実施はいつか。

(J P F)

- ・7月末からスタートする予定。

(藤本委員)

- ・サイクルカフェの入口は、競輪場の入口と別の入口を常設で設置するのか。

(J P F)

- ・正門、管理通用門の間に入口があり、自転車の運搬や工事業者用として使用している。サイクルカフェをオープンする日は、旗を掲げて、そこを入口にしようと考えている。

(藤本委員)

常設の入口になるのか。

(J P F)

- ・競輪場が開いている時に使用できるようにした。常設に近い形で運用しようと考えている。

(高岡委員)

- ・他場販売について、その営業が重要だと説明があったが、具体的にどんな営業を考えているのか。

(事務局 鴻崎所長)

- ・10月の千葉競輪開設記念の場外発売を依頼している。施行者が集まる会議等の場で、場外発売について依頼している。
- ・今回、静岡で開催された日本選手権では、千葉競輪場のキャラクターであるライモンを連れて行き、J P Fと一緒に営業活動を実施した。

(高岡委員)

- ・各施行者は、どういったレースを売りたいと考えるのか。

(事務局 鴻崎所長)

- ・実際には、レースのグレードと、出場選手で決まってくる。107期の選手が強くて人気がある。選手のあっせんは、J K Aという組織に依頼をしている。

(高岡委員)

- ・どのようなアピールが重要になってくるのか。

(事務局 鴻崎所長)

- ・どのような選手に走ってもらえばお客様に車券を購入してもらえるのか、選手会の千葉支部や、J P Fと相談している。

(高岡委員)

- ・どういったアピールをすると、出てほしい選手をあっせんしてもらえるのか。

(J P F)

- ・J K Aが選手管理を担っており、J K Aのあっせん課が1人の選手に対して月に2～3回くらいレースをあっせんしている。千葉競輪開設記念などのレースの時に、千葉市があっせん課に人気のある選手をあっせん依頼している。

(篠崎委員長)

- ・4月の後半以降、5月と6月は、1日も非開催日が無い。8月と9月に少し非開催日

が入るが、場外車券発売について、どのように考えているのか。

(J P F)

- ・競輪場の運営のために、無停電装置の検査など、定期点検が必要になる。5月6月は非開催日を設定していないので、8月か9月に非開催日を設定して、今回のHD工事の点検などの業務を実施したい。
- ・場外車券発売日数については、平成25年が309日、平成26年が317日、平成27年が327日と、お客様に毎日のように発売していることをアピールできるような日程を組んでいる。今年度は、HDの工事のため、今までの場外車券発売日数が大きく減る予定である。

(篠崎委員長)

議題1について了承。

議題2のその他について、市原委員から報告がある。

(市原委員)

- ・8月1日から公認会計士としての職務の変更があり、兼業が禁止された。このため、委員を続けていくことが不可ということになった。施行者である千葉市の皆様、J P Fの皆様、各委員の皆様、今までどうもありがとうございました。私自身、4年間ほど委員を務めさせていただいた。貴重な経験となった。

(篠崎委員長)

- ・市原委員から委員退任の申し出について、各委員に意見を求める。

(やむを得ないという意見)

(篠崎委員長)

- ・市原委員からの委員退任の申し出について了承した。
- ・次回委員会の開催から4人の委員で開催する。